

東北森林管理局

森林技術・支援センター

たより

〒037-0305

青森県北津軽郡中泊町中里亀山540-8

TEL : 0173-57-2001

FAX : 0173-57-4929

E-mail : t_gijyutu_c@maff.go.jp

平成29年度 ヒバコンテナ苗植栽試験現地検討会



平成29年9月21日(木)に試験地において、青森県内の県、林業事業者等を対象にヒバコンテナ苗植栽試験の現地検討会を津軽森林管理署の大鰐町西虹貝山国有林で開催しました。

当日、現地検討会には青森県8名など総勢約41名の参加をいただき、午前中の基調報告では、青森県産業技術センター林業研究所の伊藤研究員より「ヒバコンテナ苗の育苗方法」について説明があり、その後当センター増田森林技術専門官より「ヒバコンテナ苗植栽試験の報告」がありました。

木材価格の上昇が見込めない状況が続く中、ヒバコンテナ苗の生育やコスト面について興味深く聞き入っていました。また、参加者からは「ヒバ試験地の植栽密度はどれくらいなのか」や「植栽してから3年間はどのような施業をしたのか」などの質問・意見が出されました。午後からは試験地でヒバコンテナ苗の植栽箇所ではヒバの生育状況を見学していただきました。ヒバのコンテナ苗を生産する業者からは「ヒバがある程度成長してからコンテナに移植すると成長が悪くなったり、枯れたりした」などの苗木生産の苦労が出されるなど、活発に意見交換が行われました。

今年度も引き続き、ヒバコンテナ苗植栽試験について試験地の調査データを収集し、成長量調査等の検証をすすめることとしています。



平成29年度 低密度植栽試験現地検討会（三陸北部森林管理署）

平成29年9月13日(水)に試験地において、三陸北部森林管理署管内の林業事業者、民有林林政担当者等を対象に低密度植栽試験現地検討会が三陸北部森林管理署の宮古市区界字北田代山国有林で開催されました。

当日、現地検討会には森林総合研究所東北支所3名など総勢約40名の参加があり、試験地で平成26年度から実施している低密度植栽・下刈り省略試験の調査結果を当センター笠井所長から説明しました。その後、参加者は実際に低密度植栽試験地を見学しました。

参加者からは「来年度、この試験地で下刈りを実施するのか」や「当地のカラマツは隔年下刈り2回で完了してもよいのではないのか」等の質問・意見が出され、活発に意見交換が行われました。また、実際に下刈りを実施した業者から、「作業員に筋刈りのやり方を体感してもらうのに苦労した」等の感想がありました。

今後、当該地の低密度植栽試験について必要時期に成長量調査等をすすめることとしています。



平成29年度 合同現地研修会

平成29年7月11日(火)～12日(水)に青森県産業技術センター林業研究所と当センターの合同で民国における森林林業に関する知識・技術の情報共有等を目的とした現地研修会を開催しました。

今回はヒバのジベレリン処理及び低密度植栽の壮齢林について意見交換等することとし、初日は三八上北森林管理署管内の野辺地町の国有林において、当センターの自主課題であるジベレリン処理による効率的なヒバ下種更新のために、ヒバ立木の枝へのジベレリンペースト処理を実施しました。ヒバにジベレリン処理することで、着花が促進されます。今年度の秋に雌花・雄花の着生状況を調査し、来年度以降、結実、稚樹発生状況を調査していく予定です。

2日目は五戸町及び六戸町の民有林にある低密度植栽したスギ壮齢林を見学しました。当センターでは平成26年度から低密度植栽試験を実施していますが、壮齢期を迎えた低密度植栽林分は数が少なく、低密度植栽地が将来どのようになるかを知る貴重な機会でした。視察した低密度植栽したスギ林は立地環境もよく、植栽木の多くが残っており、樹高や胸高直径などの生育は順調のようでした。

今後も引き続き、民国連携して情報発信できるよう共同研究・発表していきたいと考えています。



森をさんぽ

増田です！



森林技術専門官
増田 悠介

夏の暑さも和らぎ、過ごしやすい秋の季節になりました。最近青森県の新聞でナラ枯れ被害・国有林初めてという記事を目にしました。ナラ枯れという言葉は青森県ではあまり聞き慣れませんが、関西方面ではよく聞きます。

以前山形県に住んでいた際に、夏に山を見渡すと所々赤く木々が変色していることがありました。夏なのに紅葉？と思いましたが、よくよく調べるとナラ枯れによって、葉が変色しているのだとわかりました。

ナラ枯れはミズナラ、コナラ、カシワなどのブナ科（ブナ属を除く）でかかり、主に大径木で発生しやすいそうです。以前はナラを定期的に伐採し薪として使用していたため、大径木が少なかったことから、ナラ枯れの発生が少なかったようです。しかし、ライフスタイルの変化により化石燃料を使用することが多くなり、ナラが薪として利用されないことからナラ枯れが全国で発生しているようです。

人間のライフスタイルの変化が密接に関係していることに驚きとともに考えさせられます。



編集後記



今年度1回目の森林技術・支援センター主催の現地検討会が無事終了しましたが、10月5日には盛岡森林管理署管内にて2回目の現地検討会が予定されております。こちらも、天候に恵まれ無事終了を願うばかりです。

さて皆さん、季節の変わり目です、ご自愛下さいね！